教育・文化週間

11月1日～11月7日

国民の協力と理解によつて
教育・文化の発展、振興を

広報こうり

たすけあいの心を倍に
(赤い羽根共同募集運動)
10. 1 ～ 12.31

発行所
光町役場
匝瑳郡光町宮川5,454の5
電話横芝 242・243

理想的な中学校実現の希望にもえて
全地区部落座談会開始

義務教育の最後の仕上げ中学校教育を完全にするためには、今のままの小さな学校では、とうてい満足できないことは、専門的研究の結果、はっきりしました。

いよいよ、この理想の実現にふみきるために、じゅうぶん町民各位の納得を願わなければなりません。この大事業が、できるかできないかは、町民各位の熱情と御理解にかかっております。

すでに、印刷物を全戸へ差上げて御了解願っておりますが、左記のような日程で、十月中に町内全地区座談会をもってみなさんの御意見を聞きます。町の方針をお話しすることとしました。

座談会日程

14日　篠本一、二区、尾垂五、六区
15日　篠本三区、新井、山柄
16日　関
17日　高野、谷
19日　長塚、五ノ神
20日　宝来、市野原、二又
23日　母子、小田部、辻、木戸
24日　傍示戸、富下、谷中、入方
27日　台、小川台、篠原、原
28日　桑郷
　　作間内、宮内
　　古屋、上宮川

昭和三十四年産米豫約売渡促進について

本年の稲作は天候に恵まれたこと、早期栽培の普及等により近年にない豊作で予約売渡しも非常に順調で別表の通り優秀な成績となりました。

この成績は農家各位の理解ある協力の結果でありますが、未だ都合で出荷しない方にも奨励金の多くつく時期（四期十月末日）に是非とも出荷を完了されるよう特に御願いします。

昭和34年産米予約売渡状況　34.10.10現在　光町

	予約数量	予約数	売渡数量	不足	指数	無売渡数	売渡数量(売内)
日吉	12,000	12,045	11,935	110	99.08		33
南条	8,430	8,906	8,876	30	99.66		45
東陽	7,370	7,702	7,522	180	97.66		33
白浜	2,865	2,954	2,860	94	96.82		30
計	30,665	31,607	31,193	414	98.69		141

備考　売無とは予約申込をしないで売渡した数

団体だより

○選挙管理委員会　九月七日白浜出張所において開催。千葉県北部海区漁業調整委員の選挙人名簿調製の件
○教育委員文教委員合同協議会九月七日開催
○中学統合問題が協議された。
○農業委員会　九月二十三日開催され農地法第三条売買関係二十一件第四条一件第五条の転用（町道及び白浜保育園）三十一条自作農維持資金八件、土地改良関係一件が審議承認された。
○議会議員と教育委員との全員協議会　九月二十六日開催され中学校統合問題について協議された。

お知らせ

従来、町税の未納については、常時一名の徴収員が徴収業務に当っておりましたが、本月からこの臨戸徴収の方法を廃止いたし、集合徴収等の方法に切替えますので、町税完納に一段と御協力くださるようお願いいたします。

（税務課）

電線が切れて感電？

これは、事故の発生した報告ではありません。秋から冬にかけては「野分」（颱風）の時季となり、しばしば道路上の電線が切断されて、地上へたれ下っていることがあります。この電線に、うっかりさわって感電事故を起すことは少なくありません。特に子供は、何も知らずに感電する危険が多いので、じゅうぶんに気をつけて上げて下さい。

郵便貯金のゆくえ

〃国を家庭を
明るく築く郵便貯金〃

安全便利な郵便貯金は家庭を明るく豊かにするばかりでなく、町や県のためにも大変役立っています。

郵便貯金は九千億円を突破して大蔵省資金運用部をとおして都道府県や市町村公共団体に貸し出され皆さんの生活をよくするための事業に使われています。

〃浪費は消える、
貯蓄は光る〃

まづ都道府県や市町村に約四千六百億円貸し出されて、学校、病院、保健所などの建設或は道路、橋、干拓事業に、また国民金融公庫に貸し出され生活資金や中小企業の事業資金に供給されています。農漁村のためには、農林漁業金融公庫をとおして、農作物品種改良、農作業機械化漁船購入資金などに貸出されます。さらに金融債の引受けにより、電力、石炭、鉄鋼、海運など日本経済の土台となる産業の資金ともなり、さらに台風やその他の災害復旧に役立つ資金となります。

〃勤労の汗を貯蓄で
ふきおとそう〃

このように、各家庭の経済の安定の根本であるばかりでなく、社会全体の生活向上の資金となる郵便貯金ですからぜひ便貯金をすすめて貯蓄を無駄をはぶいて貯蓄しましょう。

〃幸福はくらしの智恵から
貯蓄から〃

貯蓄をするには、個人でするよりも団体でする方が知らず知らずのうちにできてきます、このためには団体貯蓄組合および目的貯蓄組合をおすすめします。

組合をつくろうとお考えの方は御申出になれば役場係がお伺いしてくわしくご相談に応じます。

秋季交通安全運動

十月十六日から二十五日まで、全国交通安全運動を実施します。運動方針として、交通機関を運転する者に対する講習会は勿論、特に歩行者も認識を高めて貰うため、部落毎に、交通道徳の昂揚、交通環境の整備等についての座談会を、開いて頂きます。これは少しでも交通事故をなくするよう、また将来ある青少年を輪禍からより救うことに御協力願うのが念願であります。左記の点は、特に厳重に守って下さい。

記

一、店のはり出しを路上（下水溝）より出さない。
二、道路に空箱、木材、建築工事資材等を集積しない。
三、道路上で自動車、自転車の修理を絶対にやらぬ、場にしない。
四、路上を車庫代り或は駐車
五、道路上で子供に遊ぎをさせない。

（八日市場警察署）

納税に重ねて御協力を

納税については格段の御協力をくだされ感謝に堪えません。御蔭様にて徴収成績も逐次向上して参りました。

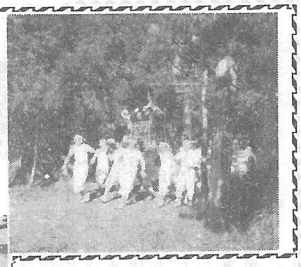
然しながら近隣市町に比して甚だ低調であります。皆様も御承知の通り本年度は日吉小学校の新築、町営住宅の建築、消防ポンプの購入、有線放送施設等々町の事業も多くて資金ぐりも苦しくなって参り税務課としては納期内納付と滞納税額の完全徴収につとめておりますので納税者の皆様方の苦境を御察しくだされて今一段の御協力を御願いいたします。

昭和三十三年度の近隣市町の徴収歩合を御参考までにお知らせします。

市町名	現年度	繰越分	平均
八日市場	95.3	34.5	86.2
野栄	92.7	18.4	73.8
横芝	93.2	46.0	88.6
多古	93.8	56.4	88.4
光	91.4	51.6	84.1

〃みのりの秋に豊年祭り〃

五年連続の豊作、もはや豊作ではない、という声もあるが、颱風被害地のことを思えばやはりみのりの秋は農民には何ごとにもかえての喜びである。新生活運動の一環に協力した「諸行事の新歴実施」に応じて、東陽、白浜の氏神「熊野神社」の秋祭りも、今年から「十月八日」ときめられ、折柄の好天に恵まれ、「おみこしは早朝「熊野神社」から向う鉢巻姿も元気な当番氏子の肩にかつがれて全氏子の地域をもみ抜き、夕刻無事鎮守の森に神しづまった。日吉、南条地区は十月十七日東陽地区のうち谷中は十月十九日、西高野は十月二十九日にそれぞれ祭礼が行われる。（写真は熊野神社秋祭りのスナップ二景）



睦会（婦人）結成　即時行動に
（災害見舞）

市街地の婦人活動や青年活動は、とかく低調にながれがちですが、今まで有名無実だった橋場の婦人方が、社会教育委員鈴木ツネさんのきもいりで「睦会」を結成しました結成と同時に早速十五号颱風災害見舞を決議、役員の努力と会員の協力によって次の金品を、十月十五日朝日新聞を通じて三重県知事宛急送の手続きをされました。

衣類その他の日用品
約二千点（十三梱）
見舞金（現金及廃品換金）
六六〇円

農村中堅青年養成所の第二十二回研修生募集

日下農村中堅青年養成所の第二十二回研修生を募集中であります。光町からも已に何人も終了して居りますが、最近の新農村建設計画の高まりと共に、俄かにこの研修が注目を浴びてきました。このことは新農村建設と人づくりが不可分のものであるからです。

新しい光町建設の推進力となるため青年の方々がふるって応募される事を望みます。

募集内容期日等については役場産業課教育委員会に御問合せ下さい。

オリンピック選手をわが町から
越川泰男後援会結成を期に

前号でお知らせした「越川泰男選手」は十月二日午後十一時四十五分羽田空港を出発、一路チェコスロバキアに向った。

当日は出身地古屋区ではバス二台を買切り羽田まで見送った。また母校同窓生はもとより町からも県からも、多数見送りをし、その行を盛にした。

これを機会に、町内有志は「越川泰男後援会」を結成した。会の主旨は単に今度の渡欧のみに限らず、この後も越川君のマラソン選手としての発展を後援し、ひいてはわが町から第二、第三の越川君の誕生を念願するものである。努力次第で、来るローマオリンピック大会にも、或は五年後の東京オリンピック大会にも光町から選手を送り出すことができる筈と後援会の関係者は張切っている。

中学校統合

あまり小さな中学校では、少年達にじゅうぶんな教育を受けさせることができないということは、前号まで申上げたとおり。しかし実際には、今の各四中学校をそのままで適正な中学校に格上げすることができないのは当然です。それで四つの中学校を統合して一つの中学校にすると、学級数は十七～二十位となり、先生も二十三～二十六人位となって理想的になります。しかし、教育はあくまでも住民のためであるので、住民の大多数の方が、それはよいと納得されなければ、行政機関だけで勝手に統合させるべきではありません。保護者の理解の上で、子供たちが幸福な教育を受けられるのでなくては、義務教育学校とは言えません。

そこで、十月十四日から十月二十八日まで、全町内全区何に座談会を開いて、住民の意見をよく聞き、また町当局の希望もお伝えすることとしました。

一度の座談会で住民と町との意見が一致をみないときは何度でも納得のできるまで、お互いの話し合いをすすめる予定です。